

ハラスメント研修会

11月27日(木)に、名古屋大学ハラスメント相談センターの葛文綺氏を招き、「大学とハラスメント—コミュニケーションを考えて防止する—」と題する研修会を行いました。セクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントのみならず、近年、様々なハラスメントがあります。それらの概要を説明したうえで葛氏は、良好な人間関係と信頼関係を構築することが、ハラスメントを防ぐうえで必要だと指摘しました。



男女共同参画関連図書の展示を行いました

10月1日から31日までの1か月間、愛知県男女共同参画週間にあわせ、総合情報センターが主体となり、山の畑分館と川澄分館で男女共同参画関連の図書の展示が行われました。開催中は、男女共同参画社会、ワーク・ライフ・バランス、キャリアデザイン、ジェンダー論、女性史に関連した図書が、山の畑分館で87冊、川澄分館で73冊展示され、多くの学生が手に取り、本を読んでいた。



子育てサポート企業認定「くるみん」を取得しました

名古屋市立大学は「次世代育成支援対策に取り組んでいる認定企業」として、認定マーク「くるみん」を取得しました。本学では平成23年7月1日から平成25年12月31日までの期間、「公立大学法人名古屋市立大学次世代育成支援行動計画(第二期)」を策定しましたが、今回の「くるみん」は、その行動計画の実施の成果をふまえて認定されたものです。取得には、育児休業取得者の人数や子どものいる職員のための短時間勤務制度の実施状況等、定められた項目を満たす必要があり、平成27年3月現在、愛知県内の大学においては、愛知教育大学と本学2校のみが取得しています。今後も仕事と子育てを両立できる環境整備を進めていきますのでご期待ください。



リラックスヨガ教室



お昼休みを利用して、心身のリフレッシュをしませんか。リラックスヨガ教室は、月に4~5回、桜山キャンパス西棟看護学部演習室で開催しています。固くなった筋肉がほぐれる、リラックスできると好評です。また、体幹を鍛えるため、水泳など他のスポーツにも効果があるという声もあがっています。毎回40分という限られた時間ではあるものの、健康維持、仲間づくり、自己啓発に役立っています。お気軽にご参加ください。

教室のスケジュールは、
大学HP→男女共同参画→ワーク・ライフ・バランス相談室→開室時間・場所へ。

教養教育科目
「地域社会における男女共同参画をめざして」

男女共同参画推進センターがプロデュースする教養教育科目「特色科目13地域社会における男女共同参画社会をめざして」を27年度も前期・木曜1限に開講します。多くの学生さんに受講してもらいたと思います。

2015年3月1日現在、本学の女性教員比率(専任)は21.6%です

さくらんぼ保育所だより

みんな大きくなりました

保育所では、いよいよ進級と卒園の時期を迎えます。3月14日には、卒園児・在園児それぞれの成長をお祝いする「成長を祝う会」を行います。今年度もさまざまな方に見守っていただく中、いっぱい遊んで食べて眠って、身も心も大きくなったさくらんぼの子どもたちです♪どうもありがとうございました。来年度も、どうぞよろしく願っています。(写真は、新年明けて行った餅つき会のものです♪)



名古屋市立大学
Nagoya City University

NEWS SUMMER 男女共同参画の推進に向けて

名古屋市立大学男女共同参画推進センター ニュースレター Vol.13

発行 名古屋市立大学男女共同参画推進センター 〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1
TEL: 052-853-8577 / FAX: 052-853-8588 / E-MAIL: sankaku@sec.nagoya-cu.ac.jp
URL: http://www.nagoya-cu.ac.jp/sankaku/ 2015年3月

あいちから日本へ、世界へ!

AICHI
女性研究者支援
コンソーシアム

文部科学省の平成26年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(連携型)」に、名古屋大学・名古屋市立大学・豊橋技術科学大学の3機関で提案した取組「あいちから日本へ、世界へ!AICHI女性研究者支援コンソーシアム」が採択されました。

この取組では、これまで男女共同参画・女性研究者支援の取組を先進的に進めてきた3大学が産業界や行政とも手を結び、「AICHI女性研究者支援コンソーシアム」を構築します。その広い連携を基盤として、女性研究者リーダーシップ・プログラムをはじめとする女性研究者の上位職登用にに向けた取組、研究力強化セミナーやシーズ・ニーズマッチングフォーラム、共同研究助成などの女性研究者の研究力向上に向けた取組、さらにはワーク・ライフ・バランス推進のための取組や女子学生キャリア支援など、多彩なプログラムを行います。これらを通して、これまで各大学で行ってきた女性研究者支援の仕組みを地域全体へ発展拡大させるとともに、産学官連携によりわが国の未来を切り拓く女性研究者リーダーを育成し、優れた研究成果を日本へ、世界へ発信することを目指しています。

初年度である26年度から、リーダーシップ・プログラム、研究力強化セミナー、女性上位職事例紹介シンポジウムの開催など、積極的に取組を進めています。取組の内容については本ニュースレター中面を、今後の取組については名古屋市立大学男女共同参画推進センターのウェブサイト(<http://www.nagoya-cu.ac.jp/sankaku/>)または近日中に開設する連携型事業のウェブサイトをご覧ください。

女性研究者の上位職登用にに向けた取組

- ◎女性研究者リーダーシップ・プログラム
- ◎女性研究者データベース
- ◎女性上位職事例紹介シンポジウム

女性研究者の研究力向上に向けた取組

- ◎研究力強化セミナー
- ◎広域メンターシップ
- ◎理系女性研究者の活躍促進シンポジウム
- ◎シーズ・ニーズマッチングフォーラム
- ◎共同研究助成制度
- ◎トヨタ・女性研究者インターンシップ

ワークライフバランス推進に向けた取組

- ◎研究支援員
- ◎介護勉強会

女子学生キャリア支援

- ◎女子学生向けキャリアアップ研修



AICHI女性研究者支援コンソーシアム「女性上位職事例紹介シンポジウム」を開催しました

女性研究者研究活動支援事業（連携型）で構築する「AICHI女性研究者支援コンソーシアム」のキックオフシンポジウムとして、「あいちから日本へ！世界へ！—女性研究者・女性リーダーの活躍事例紹介シンポジウム—」を2月23日（月）に名古屋市立大学病院3階大ホールで開催しました。このシンポジウムは、産学官における女性の活躍の好事例を共有し、愛知県内の女性の活躍を推進する目的を持っています。

当日はまず、愛知県副知事の吉本明子氏による基調講演「女性が元気に働き続けられる愛知をめざして」がありました。吉本氏は、愛知県は他県と比較して性別役割分業が強く男女の賃金格差も大きいというデータを示し、女性の活躍推進のためにはワーク・ライフ・バランス施策を充実させこれまでの働き方を抜本的に変えていく必要があること、そのために経営者層が率先して改革を進めていかなければならないことを強く指摘しました。その後の事例紹介では、名古屋市女性の活躍推進企業として表彰経験がある（株）日本政策金融公庫名古屋支店の宮地由実氏と、愛知中小企業家同友会会員企業である（株）エステムの塩崎敦子氏から、実際に企業ではどのように女性の活躍を推進しているのか、その先進的な事例を学びました。そして最後のパネルディスカッションでは大学の事例も交え、あいち全体で女性の活躍を進めるために何が必要であるのか議論を行いました。

シンポジウムには大学関係者や企業をはじめ100名ほどの参加がありました。先進的な企業のいきいきとした実践が特に多くの参加者の心をつかんでいたようです。今後も本コンソーシアムでは、産学官一体となり、あいち女性の活躍推進に取り組んでいきます。



リーダーシップ研修



2月10日（火）、本学と名古屋大学から16名の女性教職員が、リーダーシップの資質を高めようと名古屋大学に集まりました。講義はすべて英語、そして冒頭には1分間スピーチとビデオ撮影というどきどきのスタート。でも、勇気を出してスピーチを終えた後はむしろ気持ちが楽になり、様々なアクティビティを通じて自由に自己探求を楽しみました。自分の中に「隠された宝」といえるような資質があるとしたら、どうしたらもっと効果的に活用できるだろうか。自分と向き合える有益な時間でした。

介護勉強会



2月4日（水）、名古屋大学で介護勉強会が開催されました。いずれ考えなくてはならない介護と仕事の両立。介護を事前に学び、その時に備えたいという30名以上の参加者が集まりました。医療法人財団愛泉会理事長、伊出宏氏の講演からは、介護制度や様々なタイプの施設など介護全般についての知識を得られました。続く名古屋大学の吉田久美教授のお話では、いくつかの介護の体験談を通して、介護がどのように家族のストーリーになっていくかを実感を持って感じることができました。

英語論文執筆セミナー



Dr. Jeffrey Robens（エダンググループジャパン株式会社）を講師に招き、女性研究者を主な対象とする英語論文執筆セミナーを開催しました。主に文系研究者を対象にした2月4日（水）は10名、主に医療系の研究者を対象とした3月2日（月）は23名の研究者・大学院生が参加し、英語論文の構造や効果的な文章の書き方を学びました。各回とも4時間の長丁場でしたが、参加者からは、「大変わかりやすく有益なセミナーだった」「改めて確認できたことが多かった」など好評の声が得られています。

第2回名古屋市立大学男女共同参画奨励賞

平成25年度に創設し、今年度第2回となる名古屋市立大学男女共同参画奨励賞には、学生・教職員から5件の応募がありました。審査の結果、応募されたどの研究や活動も男女共同参画社会の実現に向けた主導的役割を果たすものであり、今後の社会への貢献が期待できるものと判断され、5件すべてに奨励賞を授与しました。

この男女共同参画奨励賞は、本学の男女共同参画のユニークな取組の一つです。本学の学生、教職員、卒業生が男女共同参画社会の実現に向け、社会をリードする役割を担ってくれることを期待しています。

受賞内容

経済学部山本陽子ゼミ 育児と就業の両立支援に向けて — 病児・病後児保育と学童保育の拡充とともに —

これまで認可保育所の待機児童対策などについて議論されてきたが、定員増加といった量的な側面だけが取り上げられ、認可保育所に子どもが入所した後に付随する多くの重要な問題についてはほとんど触れられてこなかった。本研究では、女性が子育てをしながら就業を継続し、社会で活躍をしていくためには、病児・病後児保育と学童保育を政策的に重視すべき支援として焦点を当てた。

玉置悠美子（大学院看護学研究科） 妊娠期女性のワーク・エンゲイジメントの実態とその退職行動に関連する要因

国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、第1子出産前後で退職する女性は62%であり、多くの就労女性にとって妊娠が退職のタイミングとなっていることがうかがえる。本研究は、助産師が就労妊婦を支援するために、助産ケアに活かす知見を得ることを目的として実施された。

芸術工学部映像研究室 長編映画「女の子ごっこ」上映活動 — 性別違和を取り巻く社会問題について描く —

性別違和の当事者の気持ちを反映しようと、学生が主体となって映画制作段階で当事者の方の集いに参加するなどリサーチを重ねた。制作後も各地で上映会を行い、性の多様性への理解を促してきた。今後も愛知県内の男女共同参画推進委員と共同で上映を含めた講演会を検討するなど、自主制作映画の枠を超えた活動を行う予定。

保育サークルぼぼんた 名古屋市立大学教職員への子育て支援活動

本サークルは、2013年4月に結成され、心理教育学科の学生を中心に、現在、部員数36名で活動を行っている。この2年間、男女共同参画への活動として、春休みや夏休みなどの長期休暇時における大学教職員の幼児・児童に対する子育て支援活動、さくらんぼ保育園へのボランティア活動、ホームカミングデーの子育て支援などを行ってきた。

名市大病院男性看護師会 男性看護師の働きがいと自己の成長のためのキャリアデザインを考える

名市大病院に勤務する男性看護師は40名と全体の看護師数の5%程度である。男性看護師の数が少しずつ増える中で、男性看護師のキャリアや働き方を考える目的で男性看護師会を立ち上げた。男性看護師会ではワーク・ライフ・バランスを踏まえた働き方について意見交換を行うなど、男性看護師の横の連携を図りながら、自分達の今後のあるべき姿を探る活動を行っている。

男女共同参画セミナー

薬学部



12月12日（金）、薬学部の学生を対象に男女共同参画セミナー「つくりだそう！私の輝く未来」を開催しました。講師の重原惇子さんはこれまでにさまざまな職業経験を持ち、現在はキャリア・コンサルタントとして若者の就労支援の仕事を行いながら、NPO参画プラネットの理事としても活躍しています。そんな重原さんのお話を聞いた後には、参加者みんなで「私の未来プランシート」を作成。参加した11名の学生がこれからの自分のキャリアを考える貴重な時間となりました。

経済学部・人文社会学部



2月5日（木）に、経済学部と人文社会学部の教員と学生を対象に、「就職活動時期の後ろ倒しについて」と題するセミナーを開催し、キャリア支援センター相談員の青地真巳氏にお話をいただきました。現在の学部3年生より就職活動の時期が大きく変更になりました。特に男女共同参画を進める上では、女子学生の就職活動について把握することも必要となります。本学の女子学生は、将来の出産・子育てを見据えつつ、地元志向が強いという話がされていました。

芸術工学部



2月20日（金）、芸術工学部の学生を対象に、「先輩！教えて、社会人って楽しい？」と題したセミナーを開催しました。芸術工学部卒業のOB/OGが現在のワーク・ライフ・バランスについて話をした後、マタハラNet代表の小酒部さやか氏による講演がありました。小酒部さんは日本はまだ男性中心の企業体質が強く残っており、企業によるワーク・ライフ・バランスの充実が必要だと訴えていました。なお小酒部さんは3月6日に「国際勇気ある女性賞」をアメリカ国務省より受賞しました。